

# 私たちの生活と 世界人権宣言

～自分たちのもっている権利について学ぼう～



## 考えてみよう！

「自由に、安全に、そして将来に可能性を感じながら生きたい」という願いをかなえるためには、必要なもの・ことは何だろうか？



## カードについてしゃべってみよう！

### 【進め方】

- (1) 4人（程度）のグループをつくりましょう。
- (2) トリピーのイラストがある面を表にしてカードを並べましょう。  
順番に好きなカードを選び、選んだ人から順番にカードの質問について話しましょう。
- (3) 全員が話し終わったらカードの裏面を読み、どんな権利と関係があるのか確かめましょう。
- (4) 裏面を確認し終わったら次のカードに移りましょう。  
先生の指示があるまで話を続けましょう。



## カードについてしゃべってみよう！

### 【進め方】

次の点について意見交換しましょう。

○もし、カード（権利）のどれかが、突然なくなってしまったら、私たちの生活にどのようなことが起きるか想像して話し合ってみましょう。

（例）「教育を受けられる権利」がなくなってしまった・・・

○カードに書かれている権利が守られていない時や守られていない人はいないでしょうか。



## 世界人権宣言について学ぼう！

自らがどんな権利を持っているのかを正しく理解することが大切です。

条約や法を学ぶことを通して具体的な人権の基準を正しく理解すると、自分の経験や身の回りで起こったできごと、文化や習慣などを、「人権が守られているか」という視点から検証し、課題を発見したり、自分をふりかえったりする力をつけることができます。



## 学習を深めてみよう！

資料を読み、どの権利とかかわりが深いか考えてみましょう。

### 「夢見る故郷の空」

ハンセン病違憲国賠訴訟全国原告団協議会事務局長 豎山 勲さん

中学校二年生13歳の時、体に発疹が現れ、まもなく校長先生から「きみは学校へ来なくていいよ」と言われました。そして何がなんだか分からないうちに、星塚敬愛園に入所させられ、園に着いたその日に強制的に偽名を名のらされました。はじめて外出許可をもらい故郷の父に会いに帰りましたが、そこに待っていたのは「もう二度と帰ってきてくれるな。兄や姉たちにも迷惑がかかるといけないから」との父のことばでした。父にそう言わせたのは「らい予防法」があったからです。それは私から家族を、友達をそして故郷を、さらには教育を奪いました。以来私は帰郷をあきらめ夢の中でしか故郷へは帰れなくなりました。父が亡くなったのも知らされず、知ったのは亡くなってから満6年後のことでした。

(出典) 厚生労働省「ハンセン病の向こう側」生徒用